

新医学系指針対応「情報公開文書」改訂フォーム

単施設研究用

冠血流予備量比 (FFR)に対する AI 活用の症例報告**1. 研究の対象**

2021年10月～2025年7月31日に当院で冠血流予備量比 (FFR)測定を受けられた方

2. 研究目的・方法

研究実施期間は、研究機関の長の実施許可日から2026年9月30日になります。

利用又は提供を開始する予定日：2025年12月1日

2021年10月1日から2025年7月31日までに実施された、冠血流予備量比 (FFR)測定に要する時間・結果と、AutocathFFR 解析（冠動脈造影の複数のX線画像をAIで解析することでFFR値を算出するプログラム医療機器）に要する時間・結果を比較します。本研究は、心臓の血管の血流が十分かどうかを評価する新しい解析方法

「AutocathFFR」の有用性を調べるものです。従来の方法では細いワイヤーを血管に通す必要がありました。AutocathFFRでは通常の心臓カテーテル検査の画像から血流を推定できるため、体への負担を軽減できます。本研究により、より安全で効率的な検査方法の確立が期待されます。

比較結果、使用経験について2026年度に開催される関連学会で発表します。

用語解説：冠血流予備量比 (FFR : Fractional Flow Reserve)

説明：心臓の血管（冠動脈）がどのくらい詰まって血の流れが悪くなっているかを調べる検査です。血管の「狭くなる前」と「狭くなった後」で血の圧力を比べて、どれだけ流れが悪くなっているかを数字で表します。

結果：1.0に近い → 血液の流れが十分。問題なし。

0.8未満 → 血の流れが悪く、治療が必要な可能性がある。

まとめ：冠血流予備量比 (FFR)は、「心臓の血管の狭さが、実際に血の流れを悪くしているかどうか」を調べる血流の診断テストです。

3. 研究に用いる情報の種類

情報：画像サーバーに保存されている患者さん個々のFFR値、冠動脈造影画像からAIが解析した値

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属・職名 高知大学医学部附属病院 放射線部 主任診療放射線技師

氏名 尾立 隆史

E-mail jm-harat@kochi-u.ac.jp

研究責任者：

高知大学医学部附属病院 放射線部 尾立隆史

-----以上